

令和6年度 学力向上指導改善プラン

三田市立ゆりのき台中学校長 南波 克典

学校教育目標		「命」と「心」を大切に、「夢」を描き、輝かしい「未来」に向け前進する生徒の育成		4月		2～3月		
推進主体		研究推進委員会		学力向上に向けての重点的な目標		年度末評価		
学力に関する前年度の状況・経年の課題等				(指標となる数値等)		(成果目標達成のための具体的な手立て等)		
						(<今年度の成果と来年度に向けた課題等)		
						評価		
学 力 の 状 況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問調査の結果も含む)	国語	【国語】「『判断し』とは何か」と見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く問題では、全国平均を12.7ポイント上回っている。自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができた。	・社会的自立に向けたキャリア教育の推進	・「将来の夢や目標を持っている」と答える生徒の割合：全国学力・学習状況調査⇒80% ・「キャリア教育・進路指導」に対する肯定的回答の割合：学校評価アンケート⇒生徒80% 保護者80% 以上	・学校教育目標にある「夢」を描くということの大切さを、あらゆる場面で生徒に語っていく。 ・「トライやる・ウィーク(2年)」の事前の保護者アンケートでは、職業に対する話を家庭でしてもらい取り組みが入っていた。生徒たちが職業観を身近な大人から聞き取ること、具体的な夢につながっていくのではないかと。 ・校内キャリア教育推進体制の強化と、高校や小学校といった校区内異校種間の連携体制の整備を図る。 ・節目節目に記入する、キャリアパスポートの活用を推進する。中学校卒業後も振り返りに活用する意識づけをする。	(<今年度の成果と来年度に向けた課題等)	評価
		算数	【数学】 ○第問6(2)の正答率は77.1%(全国58.8%)で全国平均を18.3ポイント上回っており、良好である。目的に応じて式を变形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができていると考えられる。 ◆第問3の正答率が34.6%(全国平均30.4%)で、全国平均を4.2ポイント上回っているが、正答率は低く、空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることの理解に課題がある。					
		定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	○生徒たちは各自で主体的に、目標を定めて取り組んでいる。 ◆週に一度の漢字テストなどで、予習をせずにテストに臨む生徒がいる。 生徒のやる気を引き出す指導についての研究が必要である。					
授業等からうかがえる状況(各教科)	○総じて落ち着いた授業態度である。 ◆一人一台支給されているタブレット端末をうまく活用して、主体的に学ぶ力を育成する研究が必要である。	・ICT機器を活用して生徒たちの主体的な活動を引き出す授業を展開する。	⇒生徒80%	・ミライシードを活用した協働的な学習の充実、情報の整理等を学習に位置付ける。ICT機器を活用して思考の可視化をする。 ・ミライシードの「ドリルパーク」を活用し、生徒の学習の定着状況に応じた個別最適化された学習の充実を図る。				
学 力 向 上 に 関 連 す る 学 習 の 状 況	全国学力・学習状況調査の質	○学習に対して非常に意欲が高い生徒、自分で計画を立て、長時間学習に励んでいる生徒の比率が高い。 ○学習にICT機器を使うことで効果があると思っている生徒の比率が高く、普段からICT機器を使用している生徒の比率も高い。	・「変化の激しい時代を生き抜く力」を育む教育の推進	・「特色ある学校づくり」に対する肯定的回答の割合：学校評価アンケート⇒生徒70% 保護者70% 以上 ・タブレットなどICT機器を活用した授業を行った教員の割合⇒80%	・就学前から、12年間を見通した教育を推進するため、小中高校連携を図る。 ・タブレットの使用等ICTを活用した学習活動をととして、情報活用能力の育成を図る。 ・伝統や文化に関する教育を推進し、特色ある学校づくりに努める。			
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	○「学習指導」では肯定的評価が生徒は90%以上、保護者は75%以上と概ね肯定的だったが、保護者の評価が生徒より15%低くなっている。 ◆住んでいる地域の行事への生徒の参加がすくない。今後は生徒会役員を中心に、積極的に地域との交流の機会をつくっていく。						
授 業 改 善	・主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善 ・ICT機器を効果的に活用(クラウド環境を活かした授業実施策)	【生徒質問紙調査】 ○「ICT機器を使うのは勉強の役に立つ」と考えている生徒の比率が高い。 ◆「個別最適な学び」「協働的な学び」のためのツールとしてのタブレット端末の活用が全国平均と比較すると進んでいない状況にある。	・主体的に学ぶ子どもの育成	・「学校教育目標の達成」に対する肯定的回答の割合：学校評価アンケート⇒生徒80% 保護者80% 以上 ・「読書が好き」と答える生徒の割合：全国学力・学習状況調査⇒70%	・研究推進委員会を中心に、全国学力・学習状況調査等を活用し、学力向上に努める。 ・タ学習、がんばりタイム、タブレット端末の活用等により一人一人の確かな学力の育成を図る。 ・「さんだっ子読書通帳」の活用により、小学校時代から続ける読書活動の充実を図る。			
研 究 内 容 の 研 究 ・	校内研究の状況	○「個別最適な学びをめざしたICT教育」をテーマにタブレット端末を活用した授業づくりについて研究を推進している。 ◆「防災教育」特色ある学校づくりが課題である。	・育ちと学びをつなぐ教育の推進	・「開かれた学校づくり」に対する肯定的回答の割合：学校評価アンケート⇒生徒80% 保護者80% 以上 ・ゆりのき台中学校校区学校園各種「連絡会」「研修会」の開催回数⇒計10回 以上	・学校園所連携推進に係る「ゆりのき台中学校区連絡会」「各種の研修会」の充実を図る。			
	校内研修の状況	○通常の研修に加え、タブレット端末を活用した主体的・対話的で深い学び実現のためのグループでの研修を推進する。						
家 庭 ・ 携 帯 機 間	家庭・地域等の状況	◆家庭・地域との連携のもと、放課後や夏休みにもタブレット端末を利用して学力補充を進める必要がある。	・教職員の資質向上	・「学習指導」に対する肯定的回答の割合：学校評価アンケート⇒生徒80% 保護者80% 以上 ・教員は互いに授業公開をして、技術の向上を図る。	・「個別最適な学びをめざしたICT教育」～「ミライシード」の活用をテーマに、研究に取り組む。 ・授業で週に一回程度の頻度でミライシードを活用する教員の割合を上げるよう、研修を持つ。 ・黒板や、授業の様子を、オクリンクに上げて、欠席者に授業の内容を提供する。			
	小・中における教科連携等の状況	○小・中の教科ごとの連携から、キャリア教育と道徳教育を軸とした、系統性を重視したカリキュラム連携への発展を目指す。						